

## 第2学年 「かけ算」 目標に準拠した評価と個人内評価の結合

### (1) 提案の概要

評価は、『何のために、誰が、どのように、どう活かすのか』

親と教師と子どものポートフォリオにしたい。

クラス全体では量的に評価する。

何のために評価するのか...子どもが伸びるために評価する。

だれが評価するのか...子どもと教師が評価する。(保護者のメッセージも)

教師が自分の主観で絶対評価する      教師が客観的に絶対評価する

教師が目標に準拠した評価を子どもに提示し、教師と子どもが客観化すること

授業の最初に期待度を示して、それに対する評価を にしている。

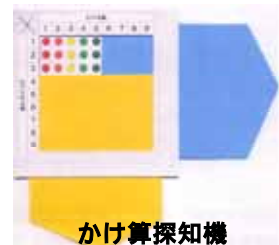
アレイ図のよさ

被乗数を固定できる。何が、いくつ分あるという情景をイメージしやすくできる。

子どもがAと判断した。しかし子どもはBと判断した。このずれを埋めていくことが大切。

同じ目標値に立つものとして、教師の立場が変わる。

教師による活動の様相の観察 + 子ども自身のふり返りの表現      評価



かけ算のしきやことばをおぼえよう。 月 日 (水)

2年赤組 名前( )

【河野さんの発見：ぞろりつり】

しき  (の) (ぶん)

よみ

たし算

さのうの発見

(の) (の) (の) (の) (の)

しき

たし算

今日の学しゅうをおえて...

4=4かんのがてかりたんだ。

友だちの言葉

今日の学しゅうをおえて...

「はかかったしき」

「にこのマークでできたよ」

「くひょうかできてよかった」

「おもしろかったよ」

友だちの言葉

「手をあげてしきを言ったら、みんながからいふた。おもしろいよ。おもしろいよ。」

くじけはいいと3か いいと37か

### (2) 討議の概要

意見...絶対評価に子どもも行き着く先を見つめて、自分はどう取くんでいく。教師もこう支援していくということに賛成。にこちゃんマークは、子どもの満足度が表れている。感情的なものになりやすいため、子どもが書いているところは、内容に関する記述(大切にしたこと、分かったこと)が書けるとよい。

(渡辺校長より) 関心意欲態度の評価で、単に見つけた個数でなく、何を調べていたかも評価の対象としてよい。

Q: 理想のものから一般化。最初具体的なものから理想化していくのは難しいのでは?

A: ぞろりタイプを見つけるのは教科書では5時間目である。数図ブロックを使って、「ぞろりタイプ」を作るところから始まる。九九の表以外はかけ算じゃないと考える子がいる。形状で見つける子もいた。数字が九九を超えてもかけ算として問題はないということをつかませようと考えた。

意見...雑巾つりのようなバラバラの場面であっても、数図ブロックをきちんと並び替える子がいてもよいのでは?

### (3) ご指導の概要

メタ認知とは、何かの活動を自分で認知すること。

評価において「3つでA」は努力目標で、探し出すということに重点を置いた指導ができるようになった。

同じ数が何回足した構造に重点が置かれているのか、それとも答えを求めることに重点が置かれているのか。評価というのはその先生が何を重点にもっているかが明らかになる。

授業をする前にどれだけの力を持っておいるかを知っていることが大切だ。

教師は何人評価することができるだろう。30人のクラスなら10名が限界では。

評価の工夫という面でも試みてほしい。